

発刊のことば

第5・6・7・8・9期忠類地域住民会議委員長

森 徹

地域の歴史や地理を学び、地域の将来を築くための糧とすることは、地域を振興する営みの第一歩であると考えます。

幕別町との合併後直ちに設置された第1期忠類地域住民会議においても、地域学研究の必要性は指摘されていました。

また、幕別町と合併後、忠類小学校で使用されていた社会科副読本「ちゅうるい」が廃止され、社会科副読本が「まくべつ」に統一されました。これにより、忠類地域の記述が少なくなり、郷土学習の衰退を心配する声も聞かれるようになりました。

このような経緯から、かつての副読本「ちゅうるい」の復刊を含め、郷土学習の教材となる図書の刊行が一層望まれるようになりましたが、刊行の主体、執筆・編集の体制、刊行原資等について名案がなく、しばらく事態の進展はありませんでした。

しかし、第6期忠類地域住民会議において図書刊行の気運が高まり、第8期忠類地域住民会議において刊行を決定するに至りました。そこで、忠類地域住民会議委員の中から6名の編集委員を選出し、執筆編集に従事していただき、約2年の歳月を要して発刊の日を迎えることができました。

この忠類地域読本「TAKE PRIDE ～ふるさと忠類の現在・過去・未来～」は、郷土学習の教材の一つとして活用されること、併せて地域みなさんに郷土忠類についての知見を深めていただくことを念頭に執筆編集したものです。そのため、コミュニティスクールちゅうるい学園で鋭意取り組まれている小中一貫ふるさと学習において、いち早く活用したいと、本書に対する期待の大きさを聞き及んでいます。

本誌が一つの手がかりとなり、忠類を知り、忠類を愛し、忠類の発展に寄与できれば幸甚の極みと考えます。

発刊にあたりまして、これまでご尽力を賜りました関係各位に深甚の謝意を表し、発刊のことばとさせていただきます。

令和5年6月

例 言

- 1 本書は、小中学校における郷土学習の教材として、また、住民のみなさんが地域について学びを深めるための資料として、有効に活用されることを念頭に執筆編集したものである。
- 2 本書の編さんにあたり、第Ⅰ部「現在を知る」は忠類地域の地理（地形・気候・人口）について大まかに捉え、第Ⅱ部「過去を学ぶ」は明治期から平成期までの忠類地域の歴史を概観し、第Ⅲ部「未来を見通す」は各分野で活躍されているみなさまから将来への提言を寄稿していただき、三部構成とした。
- 3 本文の記述にあたり、常用漢字、現代仮名遣いを使用し、読みやすさ・分かりやすさを第一に、小中学生から大人まで書見できるように心がけた。また、小学生用に文中の漢字全てにルビ付けしたルビ版も用意した。
- 4 引用文は、常用漢字、現代仮名遣いを使用すると共に、必要に応じて句読点を付して読みやすい表現にした。また、本文中に記載した氏名は、歴史書等の出版物の例にならい、敬称を省略した。
- 5 年号は、元号を使用し、元号の後の（ ）内に西暦を併記した。
- 6 第Ⅱ部「過去を学ぶ」の記述にあたり、「忠類村史」（平成12年12月忠類村発行）の記述をもとに、正確を期すように努めた。なお、忠類村史のほかに下に記した参考文献を参照した。また、第Ⅱ部第4章「幕別町との合併」の記述にあたり、忠類村広報ちゅうるい、合併協議会関係資料、住民説明会資料、当時の新聞記事を参照した。

〔参考文献〕

- 忠類村著「忠類村の二十年」昭和44（1969）年10月発行
忠類村はじめ広尾線沿線市町村著「十勝の汽笛 広尾線の軌跡」昭和62（1987）年5月発行
忠類村農業協同組合著「チョマナイと共に 創立50周年記念史」平成10（1998）年5月発行
忠類村百合根耕作組合著「20周年記念誌」昭和60（1985）年2月発行
忠類村百合根耕作組合著「40周年記念誌 百合根」平成17（2005）年10月発行
忠類村著「広報ちゅうるい復刻版Ⅰ～Ⅴ」
幕別町議会著「忠類村議会のあゆみ」平成19（2007）年10月発行
忠類小学校開校80周年記念事業著「ちゅうるいべつ」昭和63（1988）年12月発行
忠類中学校50周年記念事業著「はくぎん」平成10（1998）年1月発行
森町長湊美喜夫著「北海道駒ヶ岳噴火史」平成15（2003）年3月発行